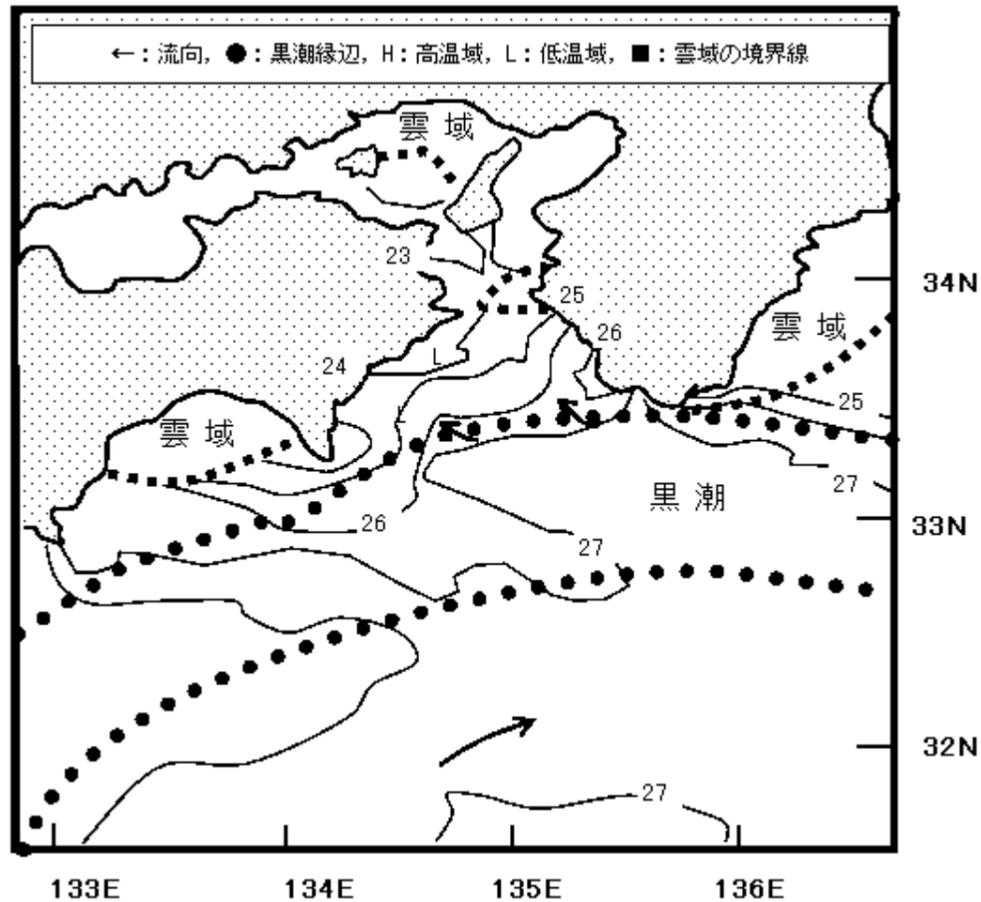


1. 海況の経過

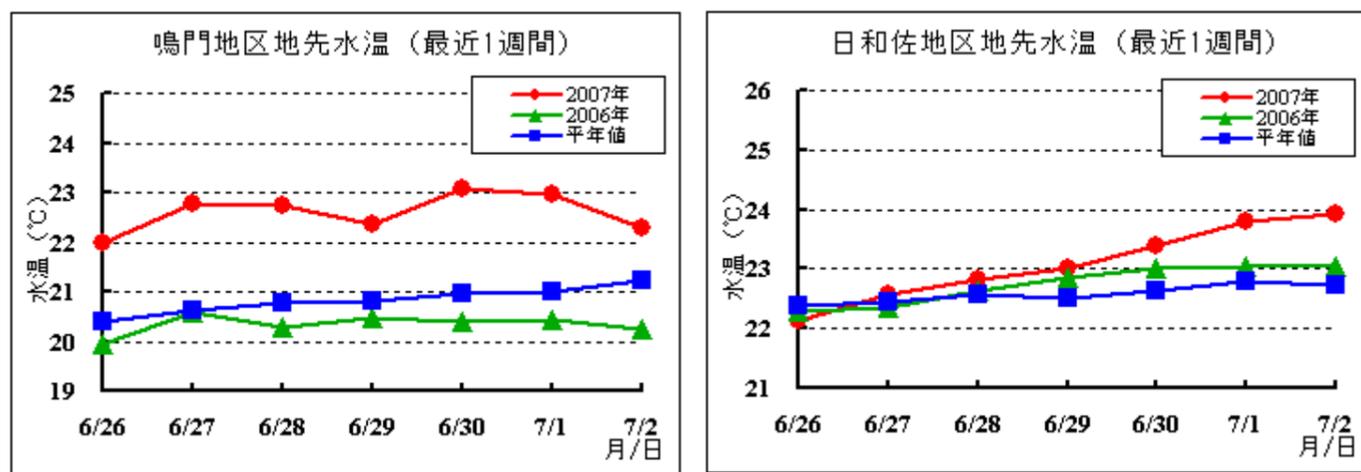
7/2 発行 海上保安庁海洋情報部海洋速報によると黒潮は、室戸岬沖、潮岬沖とも接岸している。



上に和歌山県の人工衛星画像海況速報(H19.7.1~2)を示した。
 表面水温は播磨灘が21~22℃、紀伊水道内部が22~24℃、外域が23~27℃である。
 23℃台の内海系水が紀伊水道から海部沿岸へ南下している。

地先水温

最近1週間の地先水温は、鳴門地区は「やや高め」~「高め」の22.0~23.1℃で、日和佐地区が「平年並み」~「やや高め」の22.1~23.9℃で、牟岐地区は「平年並み」~「やや高め」の22.2~24.4℃で推移した。



2. 漁況の経過

小型定置網:海部沿岸で、キビナゴが2.0トン(1日1隻あたり288kg)、マメ主体にマアジが1.2トン(同65kg)水揚げされた。先週まで豊漁が続いていたマアジの水揚げ量が減少した。また、先週豊漁であったウルメイワシの水揚げ量も減少した。

大型定置網:海部沿岸で、小主体にマアジが10.9トン(同908kg)、大主体にシイラが1.1トン(同90kg)、大主体にイサキが0.9トン(同11kg)、とびうお類が0.5トン(同41kg)、中主体にスルメイカが0.4トン(同29kg)水揚げされた。

釣り:海部沿岸で、大主体にイサキが0.3トン(同11kg)、海部沖合で大主体にシイラが1.2トン(同196kg)、キハダが0.5トン(同107kg)、紀伊水道でタチウオが0.9トン(同18kg)水揚げされた。かつお漁は依然低調のままである。

パッチ網:紀伊水道で、シラスが79.2トン(同480kg)水揚げされ、先週を大幅に上回った。

漁業種類別漁獲量集計表(抜粋)6月25日～7月1日 県下7漁協からの聞き取り

漁業種類	漁獲海域	魚種	延べ出漁隻数	漁獲量(kg)	1日1隻当たり漁獲量(kg)	銘柄・その他	
小型定置網	海部沿岸	キビナゴ	7	2,019	288		
		マアジ	18	1,176	65	マメ主体	
マアジ		12	10,899	908	小主体		
シイラ		12	1,078	90	大主体		
イサキ		12	883	74	大主体		
とびうお類		12	487	41			
スルメイカ		12	352	29	中主体		
イサキ		29	327	11	大主体		
釣り		海部沖合	シイラ	6	1,178	196	大主体
			キハダ	5	536	107	大主体
	紀伊水道	タチウオ	52	943	18		
パッチ網		シラス	165	79,200	480		

週間予報:

黒潮は室戸岬沖、潮岬沖ともに接岸する見込み。

地先水温は、鳴門地先で「やや高め」の22～23℃、日和佐地先で「やや高め」の24～25℃で推移する見込み。

他県情報:

和歌山県の釣りでスルメイカが8.6トン(1日1隻あたり47kg)、イサキが5.9トン(同32kg)、パッチ網でシラスが8.3トン(同141kg)水揚げされた。

高知県芸東地域の大型定置網で、マアジが12.2トン、さば類が1.8トン、マイワシが1.8トン、ウルメイワシが14.6トン、シイラが12.0トン、オアカムロが5.4トン水揚げされた。

*水温偏差の目安

平年並み:±0.49以下, やや高め(やや低め):±0.50～1.49, 高め(低め):±1.50～2.49, かなり高め(かなり低め):±2.50以上